

ご挨拶

令和三年二本松神社例大祭を皆様のご協力に依りまして斎行出来ました事、誠におめでとうございます。

一昨年からの新型コロナウイルス感染症の世界的流行という事態の中で、昨年に続き神輿、太鼓台の行事は中止、神事のみ例大祭となったことは非常に残念な事ではありますが、皆様と共に日本国と世界の平和と繁栄、二本松の発展と氏子崇敬者のご多幸とご健康をお祈り出来ましたことは意義深い事と思います。さて、神道は悠久の昔からの祭祀を行う事を本義とします。

祈りの対象は、神であります。神とは遠い祖先の靈魂でもあります。その存在を認め、信じる事によって、人は御利益を得られるとされています。その事をよく考えてみますと、そこには深い意味があるのです。

現代に於いては、人は地球に発生した原始的生命体が進化した生物と見做されています。そして死後は肉体は物質に変化し、意識は無くなると、恐らくその様に考えることが常識となっているのでしょうか。そこに靈魂や人生の意味、倫理道徳などが介在する余地はなく、それらは既に形骸化の一途を辿っているのです。その結果として、社会に於いては、刹那主義が蔓延し、一過性のイベント、娯楽や経済的競争などが人生の意義や目的にすり替わってしまっているのです。

しかしながら、神道に於いては、「日の本に 生れ出^いでにし 益^{ます}人は 神より 出^いでて 神に入るなり」即ち、人は永遠なる靈魂の存在するあの世からこの世に

生まれ、しばらくの間過ごし、自分の役割を無事に果たした後は、あの世に帰り、安らう事が出来ると、そのように信じられているのです。それ故、この世では、この世のみならず後の世での賞罰を信じ、恐れ、善行を心掛け、常に神や先祖を敬い、邪心や慢心を持たないよう気を付けて生きなければなりません。それが敬神的生活であり、そこから人としての尊厳、品格、倫理道徳や美しい文化芸術が派生するのです。もし社会の多くの人々がそのようになれば、自ずと犯罪は減り、争いごとは少なくなり、自然環境は守られ、より豊かな生活が営めるようになるでしょう。私はそう信じております。

そうであるからこそ、氏子崇敬者の皆様が益々敬神の念を深められ、益々幸せになられる事の希望が生まれるのです。その希望が実現するように謹んでお祈り申し上げます。

また、太古の昔には、文明横断的に世界中で営まれていた祭祀が、我が国では神道として伝統を受け継がれている事に、その信仰が今も生き続けている事に誇りを持って、このお祭りが子々孫々まで継承され、発展していく事を切に願っております。

令和3年10月2日

二本松神社 例大祭に於いて

二本松神社 宮司 安藤 豊